

日経BP社主催の「デジタルヘルス DAYS2018」にブース展示と講演

2018年10月17日(水)～19日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催された「デジタルヘルス DAYS2018」に奈良医大とMBTコンソーシアムが連携して参加しました。

奈良医大MBT研究所の梅田智広研究教授が進めてきたヘルスケア見守りをコアとした”MBT Link”が、MBTコンソーシアム参加企業をはじめ複数社の連携でシステムとしてまとめ、その応用実証実験が各地で展開されていること、そして奈良医大初ベンチャー企業のMBTリンク社が10月1日からスタートしたタイミングでもありましたので、本年は”MBT Link”を中心としたブース展示とカンファレンスプログラム講演での参加となりました。

■ブース展示

写真に示すように、MBTコンソーシアム会員企業の㈱ライフビジネスウエザー、ユニオンツール㈱、東洋紡㈱、デンソー(株)、ヘルスグリッド㈱や、MBTリンク㈱、一般社団法人健康医療推進機構が、パネルと現物デモ展示で自社技術や商品をPRし、MBTコンソーシアムもパネルで体制や活動内容をPRしました。

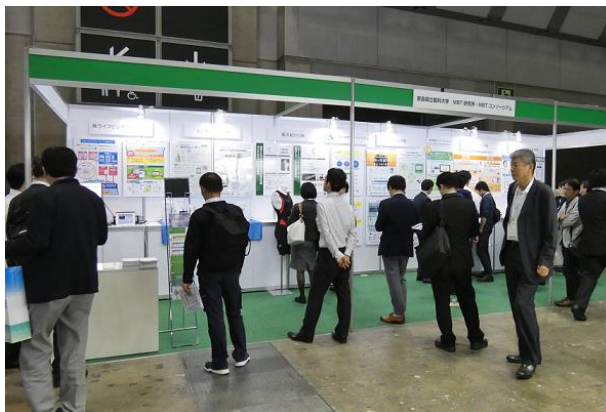


写真) 奈良医大&MBTコンソーシアム展示ブースにおける参加企業の説明風景

■カンファレンスプログラム講演

写真に示すように、奈良医大MBT研究所の梅田智広研究教授が、18日は「具現化！医学を基礎とするまちづくり～始動！奈良医大初ベンチャーによる事業化」と題して、“MBT Link” のシステム概要と特長、および活用事例をいくつか紹介しました。

19日は「MBT 研究所による出口戦略および Society5.0 の実現」と題して、今後の MBT 研究所の将来展望を紹介しました。

いずれの講演も、200名を超える聴衆が参加、熱心にメモを取る姿が見られ、また講演後にも質問者や名刺交換者による長い行列ができ、この分野の関心の高さを伺い知ることができました。



写真) カンファレンスプログラム講演の会場風景